

“み入り”測定結果を8表、図-4に示した。

前期(41日間)飼育の結果はモイストペレットを主体にした配合飼料給餌区で、生殖腺重量は5.1~6.6gの範囲にあり、生のアナアオサを主体に給餌した対照4.8gにくらべてわずかによいが、総体として“み入り”は極端に少ない。生殖腺指数についても3~5%の範囲で同様である。

後期(35日間)の飼育結果はモイストペレットを主体にした配合飼料給餌区では生殖腺重量12.6~15.4gの範囲にあり、モイストペレットに微細藻類を補給して給餌した場合に15.4gと最も大きい。この3試験区間に有意な差はない(8、9表)。生殖腺指数についてみても微細藻類補給モイストペレット給餌区が最も大きい。生殖重量の場合と同様、配合飼料給餌の3試験区間

8表 測定結果(み入り)

試験区	7.30				9.10				10.16					
	個体数	GW	GW/BW×100		個体数	GW	GW/BW×100		個体数	GW	GW/BW×100			
モイストペレットのみ					10	5.8	105.4	3.8	32.9	10	12.6	217.5	7.3	44.3
スジアオノリ入り					9	5.1	142.4	3.7	47.2	8	12.8	208.0	7.1	51.6
モイストペレット					9	6.6	93.5	4.6	52.3	10	15.4	464.5	8.8	40.0
モイストペレット(+微細藻)					8	4.8	169.7	2.8	29.1	8	4.5	164.9	1.5	12.7
対照	10	3.0	35.2	2.9	35.2									

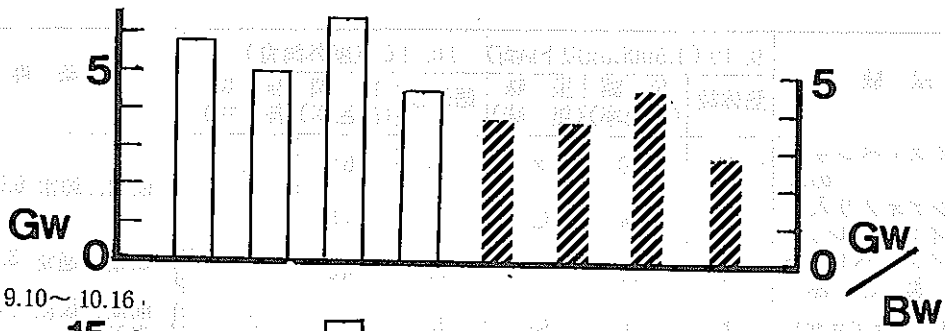
9表 “み入り”の検定

餌料種別	9.10		10.16	
	GW	GW/BW×100	GW	GW/BW×100
モイストペレット/スジアオノリ入りのみ	0.7<3.1 (17, 0.10)	0.1<1.7 (17, 0.10)	0.2<4.3 (16, 0.10)	0.2<2.0 (16, 0.10)
モイストペレット	0.8<2.7 (17, 0.10)	0.8<1.8 (17, 0.10)	2.8<4.8 (18, 0.10)	1.5<1.7 (18, 0.10)
モイストペレット(+微細藻)	1.0<3.4 (16, 0.10)	1.0<1.6 (16, 0.10)	8.1>6.8 (16, 0.01)	5.8>3.6 (16, 0.001)
スジアオノリ入り	1.5<3.2 (16, 0.10)	0.9<2.2 (15, 0.10)	2.6<5.4 (16, 0.10)	1.7<2.0 (16, 0.10)
モイストペレット(+微細藻)	0.3<3.9 (15, 0.10)	0.9<1.9 (15, 0.10)	8.3>7.7 (14, 0.01)	5.6>4.4 (14, 0.001)
モイストペレット(+微細藻)/対照	1.8<3.4 (16, 0.10)	1.8<2.0 (15, 0.10)	10.9>8.7 (16, 0.01)	7.3>3.5 (16, 0.001)

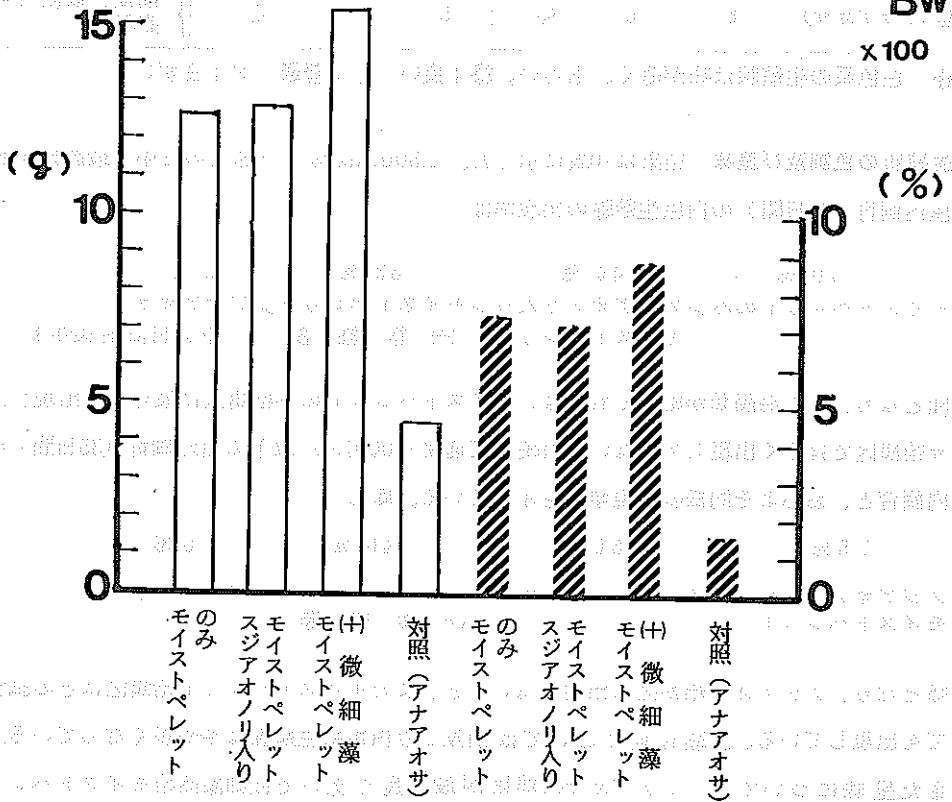
試験前期と後期の“み入り”の検定

試験区	GW	GW/BW×100
モイストペレットのみ	6.8>5.5 (18, 0.01)	3.5>2.7 (18, 0.01)
スジアオノリ入り	7.7>6.9 (15, 0.01)	3.4>3.2 (15, 0.01)
モイストペレット	8.8>7.6 (17, 0.01)	4.2>3.1 (17, 0.01)
モイストペレット(+微細藻)		
対照(アナアオサ)	0.3<4.3 (14, 0.10)	1.3<1.5 (14, 0.10)

(前期) 7.30~9.10



(後期) 9.10~10.16



生殖腺重量 (GW) 生殖腺指数 ($\frac{GW}{BW} \times 100$)

図-4 餌料種類別“み入り”

飼料種類別「み入り」の相違は、前期（7.30~9.10）と後期（9.10~10.16）の間に有意な差はない。しかし試験前期と後期の“み入り”の相違は対照区を除いて顕著である（9表）。

また配合飼料給餌区とアナアオサを主体にした生海藻給餌の対照をくらべると 配合飼料給餌区の“み入り”は大きい（図-4）。